

好きです！



南関三小

学校教育目標

「やさしく・しっかり考え・たくましい
『南関三小っ子』の育成」

《育てたい力》

協力する力

考える力

やり抜く力

6年生修学旅行

「クスノキに誓った平和への思い」

10月17日から18日にかけて、6年生が長崎方面への修学旅行に出かけました。1日目は「平和」について、教室では学習することができない大切なことを、自分の目で見て、耳で聴き、心で感じ取り学びました。

長崎に到着して被爆体験を語り継ぐ語り部の方によるお話を聴きました。戦争の悲惨さ、家族を失った悲しみ、そして平和のありがたさ——語られる一言一言が、子供たちの心に届いていました。「平和のバトン」を受け継いでほしいという願いを真剣に心を込めて深く考え受け止める様子が伝わりました。



フィールドワークでは、長崎原爆資料館、爆心地公園、浦上天主堂、山里小学校などを訪れました。原爆資料館では、当時の写真や遺品、被爆の記録を目の当たりにし、子供たちは静かに展示物に向き合っていました。爆心地公園や浦上天主堂では、実際にその場に立つことで、原爆の被害の大きさや人々の思いを肌で感じました。山里小学校では、被爆当時の防空壕などが保存されており、かつてそこに通っていた子供たちの姿を想像しながら、平和を守り続けることの重みを心で受け止めていました。

その後、平和公園の平和祈念像の前で平和集会を行いました。子供たちは心をひとつにして、平和の誓いを伝え、福山雅治さんの「クスノキ」を心と魂を込めて歌いました。命の強さ、平和への願いが込められた歌詞を、丁寧に力強く歌い上げ、長崎の空にやさしくかつ力強く響きました。



平和集会の後に訪れた山王神社では、原爆を受けながらも生き抜いた「被爆クスノキ」に触れました。そのぬくもりや力強さを肌で感じながら、子供たちは平和を守り続けていくことの大切さを、改めて胸に刻んでいるようでした。平和について深く考え、心を動かされた一日。平和のバトンを受け継いだ長崎での学びは、6年生の心にしっかりと根を張り、これからの人生においても大切な道標となると思います。

新聞投稿の取組

南関三小では新聞投稿を積極的に行っています。語り部の方の「平和への近道は、周りの友達を大切にすること」という言葉が心に残ったことや、つらい記憶を語ってくれたことへの感謝の気持ちを実感。原爆資料館では、戦争の悲惨さや命の重みを実感し、平和について深く考えたことについて表現した6年生の池田堇さん「平和への近道 友達を大切に」【R7. 11. 21日付け熊日】が掲載されました。

長崎の修学旅行で被爆体験者の語りを通して、原爆の恐ろしさと平和の大切さを学んだこと。語り部の方が、家族や友人を一瞬で失った悲しみ、食べ物が入らず空腹に苦しんだ日々を語られ、思いやりの心と命の重みを胸に刻み、戦争のない未来を願う気持ちを強くしたことについて表現した6年生の高木想さん「互い思いやり 戦争なくそう」【R7. 12. 1日付け熊日】が掲載されました。

また長崎への修学旅行で、原爆の被害や平和の大切さについて深く学び、語り部の方の話から、爆風で多くの人々が亡くなり、浦上天主堂の一部が川に落ちたことを知り、原爆の恐ろしさを実感したこと。世界には今も多くの核兵器が存在し、なぜそんなに必要なのかと疑問と不安を感じるとともに、改めて平和のありがたさを実感し、長崎を最後の被爆地にするために、自分にできることを考えたことについて表現した6年生の竹隈月香さん「平和の大切さ 未来へつなぐ」【R7. 12. 3日付け熊日】が掲載されました。